

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

Itoh K, Hirota S, Katsumi Y, et al. Trigger point acupuncture for treatment of knee osteoarthritis - a preliminary RCT for a pragmatic trial *Acupuncture in Medicine* 2008; 26(1): 17-26. CENTRAL ID: CN-00638475, PMID: 18356795

1. 目的

高齢変形性膝関節症患者に対する標準経穴鍼治療とトリガーポイント鍼治療の有効性の比較

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

明治鍼灸大学附属病院整形外科外来、京都、日本

4. 参加者

米国リウマチ学会の判定基準に従い臨床的・放射線学的に変形性膝関節症と診断され、6か月以上症状のある外来患者 30名 (男性 3名、女性 27名、年齢 61-82歳)。

5. 介入

Arm 1: トリガーポイント鍼群 (10名)。ステンレス鍼 (0.20×50mm) を筋に 10-30mm 刺入、雀啄術にて局所単収縮反応を引き出した後 10分間置鍼。

Arm 2: 標準経穴鍼治療群 (10名)。ステンレス鍼 (0.20×40mm、セイリン社製) を筋に 10mm 刺入、雀啄術を行い、鈍痛または得気の後 10分間置鍼。刺入ポイントは梁丘 (ST34)、犢鼻 (ST35)、足三里 (ST36)、陰陵泉 (SP9)、血海 (SP10)、陽陵泉 (GB34)。

Arm 3: Sham 鍼群 (10名)。ステンレス鍼 (0.20×50mm) の先端を切断したものを使用。治療ポイントは、トリガーポイントで刺入、雀啄術、置鍼する擬態を行う。アイマスクを使用。

治療頻度は、Arm1-3ともに週1回、合計5回。

6. 主なアウトカム評価項目

痛みの Visual analogue scale (VAS)、初回治療前、初回治療後 1、2、3、4、5、10、20週、計8回。Western Ontario and McMaster Universities Osteoarthritis Index (WOMAC)、初回治療前、初回治療後 5、10、20週、計4回

7. 主な結果

VAS 平均スコアは、Arm 3 に比べ Arm 1 と Arm 2 で有意に減少 (それぞれ $P=0.006$ 、 $P<0.001$)。また、3群の曲線下面積を比較すると Arm 2 が最も小さく、Arm 3 とは有意な差を認めた ($P=0.025$)。WOMAC 平均スコアは、Arm 3 に比べ Arm 1 と Arm 2 が有意に減少 (それぞれ $P<0.001$ 、 $P<0.001$)。また、3群の曲線下面積を比較すると Arm 2 が最も小さく、Arm 3 とは有意な差を認めた ($P=0.031$)。

8. 結論

高齢者の変形性膝関節症に対してトリガーポイント鍼治療は有効である。

9. 鍼灸学的言及

侵害受容器が様々な因子によって感度が高められた結果トリガーポイントが出現するが、このポイントへの鍼刺激が侵害受容器に影響を及ぼした。一方、経穴への刺激は感度が高まった侵害受容器へ必ずしも影響を及ぼすものではないとの記述がある。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

本研究は、高齢者の変形性膝関節症に対して、シャムも含めた鍼の手法の違いによる効果比較を行ったものである。評価項目、結果とも明解である。ランダム化、患者マスクの実施と結果報告もあり RCT としての質は高い。ただ、Arm 2 でのトリガーポイントの検索と Arm 1 での経穴の検索は明らかに異なるものと考えられ、対象者に鍼経験者がいた場合マスクが十分ではない可能性がある。臨床的意義も大きくさらなる発展が期待される。

12. Abstractor

下市善紀 2011.9.11